議　事　録

【開催状況】

１．会議名　　令和８年度第３回木更津市介護保険運営協議会

２．日　時　　令和８年１０月２３日（金）午後７時００分から午後８時００分まで

３．場　所　　木更津市民総合福祉会館　第１・第２研修室

４．出席者　　委　員：天野委員（会長）、永原委員、山口委員、齊藤委員、大野委員、
比連﨑委員（副会長）、鎌田委員、川俣委員、初芝委員、石井（丈）委員、
江澤委員、加曽利委員、友光委員、中畑委員、石井（将）委員（出席１５人）
（欠席）若林委員

事務局：阿津福祉部長、角課長、平野係長、玉木主任主事、杉山主任主事
（高齢者福祉課）大倉野次長、服部課長補佐
（㈱ぎょうせい）奥江氏

５．傍聴人　　０人

【会議概要】

１．開 会

２．会長あいさつ

３．議 題

各資料のとおり事務局から概要を説明。質疑及び意見等は以下のとおり。

（１）「木更津市高齢者保健福祉計画・第１０期介護保険事業計画・認知症施策推進計画」に係る各種調査について

友光委員：P20 老老介護の進行について、主な介護者と本人との関係の項目で「その他」の割合が 4.4%となっているが、具体的にはどのような方が該当するのか。

事務局　：「その他」は選択式での回答であり、家族以外の方が該当する。

永原委員：P25 認知症施策に関するアンケート調査について、認知症キャラバン・メイト調査では、講座運営で困っていることで「参加者の確保」が 83.3%と最も高い結果となっている。予定数に満たない場合でも、認知症に関心のある方の参加であれば、一定の意味があるのではないかと考えるが、参加者数が少ないことについて、行政としてはどのようにお考えか。

事務局　：認知症について広く市民に理解していただくことが重要だと考えており、できるだけ多くの方に参加していただきたいと考える。より多くの市民にサポーターとなっていただくことで、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めていきたいと考えている。

加曽利委員：各種調査は郵送配布回収の方法で実施されているが、回答率を上げるため、電子的方法での実施はしなかったのか。

事務局　：インターネット等による電子的方法も検討したが、ニーズ調査は 65 歳以上の高齢者、在宅介護実態調査は要支援・要介護認定者を対象としているため、今回は郵送配布回収の方法で実施をした。

江澤委員：P24 主に介護をしている方の心身の負担・仕事への影響の軽減の中で、介護者に対する市の支援として必要なサービスで「家族が休みたい時に利用できるショートステイの充実」が 40.0%と高い結果が出ている。現在の市のショートステイの状況と、不足にどのように対応されるのか、教えていただきたい。

事務局　：第９期介護保険事業計画において、施設整備が計画されており、ショートステイも併設される予定となっていることから、当該施設整備の動向を注視しつつ引き続き検討いたしたい。

永原委員：P28 介護事業所アンケート調査について、調査対象の 100 事業所は開設時補助金を受けている事業所を対象としているのか。また、調査の趣旨について説明されているのか。

事務局　：補助金を受けている事業所とそうでない事業所の両方が対象となっている。当該調査については、次期事業計画策定に向けたものである旨ご案内している。

（２）「木更津市高齢者保健福祉計画・第１０期介護保険事業計画・認知症施策推進計画」の構成及び基本的な考え方について

永原委員：今回実施したニーズ調査等、各種調査が具体的にどのように事業計画に反映されるのか教えていただきたい。

事務局　：各種調査結果を踏まえ、新規の事業方針を複数位置付けることとしている。具体的な施策や事業については、調査結果から得られた課題や市民ニーズを反映させられるよう、引き続き検討いたしたい。

永原委員：次回会議では、９期からの変更事項がわかる資料があるとよいのではないか。

事務局　：委員の皆様にわかりやすい資料の作成に努める。

（３）その他

４．閉 会